

南ア 角兵衛沢～鋸岳

メンバー:三井(単独)

山行日:08年12月31日～

09年1月1日

正月期の鋸岳は以前所属していた会で二度行っていたがいずれも甲斐駒から縦走しての山行だった。

久し振りに行こうと思ったのだが今回は単独でもあるし、体力的に楽な角兵衛沢からのルートを取る事とした。

[第一日]

早朝、家をでて戸台に向かう。

寒々とした戸台の河原の駐車場に車を止めるが既にざっと60～70台の車。やはり、この時期の戸台は賑やかだね。手早く支度を済ませ、ザックを背に河原を歩いていく。冬山の装備やらテント、それにロープなどで膨らんだザックが肩に重い。

砂利で埋まった荒涼とした河原を黙々と歩く。2時間ほどで角兵衛沢の出合。飛び石で対岸に渡り登山道に踏み込む。予想に反してトレースは無いが、雪はうっすらと乗っているだけでラッセルの要は無い。

赤テープが鬱陶しい程付いていてルートは明瞭だが、変化の全く無い樹林帯の急登が続き、結構きつい。

以前来た時はこの角兵衛沢を下っているのだがずっとガレた沢通しに下ったものでこんな樹林帯のルートがあるとは知らなかった。

まるで変化の無い、苦行のような登りに足取りも重い辛抱が続き、漸く大岩

下の岩小屋に到着。早速テントを張り落ち着く。

今夜は一人独占か、と思っていたら夕方、二人パーティーが来て隣に幕を張った。

[二日目]

今年も元旦に山にいられる事に感謝。ここは西面が幾らか開けているだけなので初日の出は拝めない。少し残念だが天気はよさそうなので良しとしようか。

隣のパーティーと前後して出発。酷いガレ沢を登っていく。雪はうっすらとしていたが上につれ雪が凍っていて途中でアイゼンをつける。

ガレ沢を登りきり、吹きさらしのコルに上がるとさすがに凍った風が身に染みる。長居は無用、早々に更なる高みを目指す。

コルから一登りで第一高点(鋸岳山頂)。天気はよく、行く手に甲斐駒が聳え、右に目を転ずると中央アルプス連峰の眺めも素晴らしい。痩せた稜線を慎重に辿り小ギャップの懸垂点にでる。何とステンレスの鎖が下がっている。反対側の斜面も同様の鎖が垂れている。鎖はまだ新しそうでここ数年の間に設置されたものだろう。

しかし、なぜここに鎖なんだろうね。この山に入ろうとすればロープは必携だし、この鎖を当てに登る登山者がいるとも思えない。こんな壁状の斜面を鎖にすがってゴボウで登り下り出来るハズもないと思うのだが...

その小ギャップを懸垂で下り、急な壁状を登って鹿窓に出る。ここにも鎖がたれている。左から回り込むように進

み、痩せた稜線を僅かに下降して行く
と大ギャップの懸垂点に出る。5・60
センチ程の枯れ木にスリングが幾重に
も巻きついていて明瞭だが、鎖よりこ
んなところにこそしっかりした懸垂支
点を設置して欲しいもんだね。

ロープをセットするが投下しても風で
ロープが舞ってブッシュにでも引っか
かったら厄介だ。束ねたロープをスリ
ングで腰溜めにして下る。降り立った
狭い凍ったルンゼを前爪を蹴りこんで
慎重に5・60メートル程下り、第二高
点側にトラバース、一登りで第二高点。
錆びた剣が立っている。

これで厄介なところは終わり。右に回
りこむように急な斜面を下っていくと
中の川乗越。

計画書ではここが二日目のテン場とな
っているのだが時間はまだ1時を僅か
に廻ったばかり。「さてどうしようか。」
ここは無雪期は岩のゴロゴロした荒れ
た所だが、今は雪で覆われているテン
場になっていて、予定通り泊まるには
悪くない。が、腹案として考えていた、
早目に着いたらそのまま下山、とすべ
きか...

暫く考えていたがやはり下山がベター
と判断して腰を上げる。

熊穴沢は角兵衛沢と同様酷いガレ沢で、
下り難いったらない。踏み出す足元の
岩が全て動く感じで定まらず、体力を
消費するし、ストレスも溜まる。が、
こんな所は焦っても仕方ないと自分を
抑えて下り続ける。

3時間ほどで漸く出合に出る。ヤレヤ
レだ。後は戸台まで河原歩きをすれば
いいとは言うもののまだ長い。

直に日は暮れ、ヘッドライトを点けて

歩くが、すでに10時間を越す行動で体
力的にもヨレてきているが自分を叱咤
して歩くしかない。

ここで気づいたのだが自分が使っているヘッドライ
トはベツルのLEDタイプで、これは会員の多くも
使用しているのだが、このタイプは近距離を広範囲
に照射するのはいいのだが遠方を照射するには向い
ていない。それで河原の対岸の様子が分からずルー
ト探しには余りうまくない。今は遠近両用タイプも
出ているようだが..。

漸く闇の中に駐車場の車が目に入って
きた。「アー、着いた。」

ザックを下ろし、車の横に尻たり込む。
あれだけ止まっていた車も今はホンの
数台を数えるだけ。「さあ帰ろう。」

手早く着替え、帰途に着く。